



平成 21 年 1 1 月 4 日

各 位

会 社 名 曙ブレーキ工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 信元 久隆
(コード番号 7238 東証第一部)
問合せ先 経理部長 岡田 拓信
(TEL. 048-560-1501)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 21 年 8 月 3 日に公表いたしました第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想及び平成 22 年 3 月期通期業績予想を下記のとおり修正致しましたのでお知らせ致します。

記

1. 平成 22 年 3 月 第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	57,500	△1,000	△2,000	△1,000	△9 円 31 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	58,880	140	△650	△167	△1 円 56 銭
増 減 額 (B-A)	+1,380	+1,140	+1,350	+833	—
増 減 率 (%)	+2.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期連結累計期間実績 (平成 20 年 9 月期)	90,157	1,484	777	170	1 円 59 銭

(修正の理由)

主として日本及びアジア地域での自動車販売が増加したこと等、当社グループの受注も回復傾向にあったため平成 21 年 8 月 3 日に業績予想の修正を行いました。その後、政府による自動車購入補助金政策や減税据置など需要喚起策などにより、日本国内の完成車メーカーからの想定以上の受注回復、補修品事業においても在庫調整の反動による受注増加が 9 月末まで続いた影響等により、売上高増加及び利益増加となりました。

2. 平成22年3月 通期連結業績予想数値の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	122,000	2,500	500	200	1円86銭
今回修正予想(B)	126,000	3,000	1,000	500	4円66銭
増減額(B-A)	+4,000	+500	+500	+300	—
増減率(%)	+3.3	+20.0	+100.0	+150.0	—
(ご参考) 前期実績(平成21年3月期)	159,649	△6,289	△7,900	△16,277	△151円65銭

（修正の理由）

期初時点の予想と比べ、自動車産業を取り巻く環境は日米欧亜とも改善しており、特にアジア地域での生産・販売が堅調に推移すると予想されることから、通期連結業績を上記の通り上方修正するものです。地域別の内容は以下の通りです。

日本…期初予想時点では、上期に急激な売上高の回復は期待できず、下期に回復がずれ込むと見込んでいたため、下期偏重の期初予想となっておりました。しかし、上期の売上高回復に伴って下期売上高予測のバランスに変化がでてきております。国内再編及びコスト削減は計画どおりすすんでいるものの、需要の回復が本物であるか否かの判断がつけにくい面もあることから、現段階の予想では通期の売上高は結果的に微増、営業利益も微増に留まる見込みです。

北米…下期については米政府の実施しているスクラップインセンティブによる需要喚起策の効果を一部享受できるものの、上期で一部の完成車メーカーの工場生産休止の影響、受注量の大幅変動及びユーザーの趣向の変化に伴う商品構成の変化等があり減益となる見込みです。

アジア…中国・インドネシアについては主要な完成車メーカーからの受注増加を主要因とし、またタイにおいても下期予想以上の受注増加が見込まれ、各国ともに上期に引き続き下期も好調を維持できるものと見込んでおります。

	売上高			営業利益		
	前回予想	今回予想	増減	前回予想	今回予想	増減
日本	78,000	79,100	+1,100	1,500	1,700	+200
北米	34,200	35,000	+800	200	△800	△1,000
欧州	3,700	4,000	+300	100	40	△60
タイ	2,200	2,300	+100	△300	50	+350
中国	2,400	3,300	+900	100	410	+310
インドネシア	8,300	10,000	+1,700	710	1,440	+730
アジア消去	△500	△700	△200	0	0	0
アジア	12,400	14,900	2,500	510	1,900	1,390
消去	△6,300	△7,000	△700	190	160	△30
合計	122,000	126,000	+4,000	2,500	3,000	+500

当社グループでは、筋肉質なコスト構造を達成するために下記施策を確実に実行継続してまいります。

- 日本国内生産拠点の再編と人員の適正化の計画通りの実行
- 徹底した固定費削減活動の継続と更なる推進

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以上